

野口遵記念館建設 基本設計(案)の概要

基本設計コンセプト

市民に長く愛されてきた野口記念館を継承し、音楽を中心としたホールとして、また延岡城跡を中心とした歴史文化ゾーンの象徴的施設として、求められる役割を十分に果たせる機能と特徴を持った施設を目指しています。

あわせて、多目的に活用できるフリースペースを設け、各種イベントや市民活動等による活用も可能にすることとし、また、まちなかのにぎわい創出につながるよう、文化活動が外から見える形での施設整備を考えています。

また、ギャラリーでは、野口遵翁の人間像をわかりやすく伝えることにより、夢や志に向かって挑戦し続けることの大切さを、子どもたちにも伝えていきます。

また、施設の長寿命化や環境配慮、施設管理に係るコスト縮減の検討に加え、館内のそれぞれの部屋の効率的な使用を可能にするとともに、景観形成地区内における高さ制限の中で、可能な限りの機能確保に努めています。

さらに、県内で最も森林面積が広い本市の特長を踏まえ、地元の木材を可能な限り使用し、市民がふるさとに誇りを感じることができるよう、検討していくこととしています。

1. 場 所

延岡市東本小路 119-1 (現地建替え)

2. 建物概要

建物用途 : 劇場

敷地面積 : 約 14,300 m²

構造/規模 : 鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造

地上 4 階建て (延床面積 約 4,200 m²)

駐車場 : 約 280 台 (思いやり駐車場含む)

用途地域 : 近隣商業地域、第一種住居地域

建ぺい率 : 80%、60%

容積率 : 300%、200%

防火地域 : 準防火地域、法 22 条区域

3. 施設整備の目標

- (1)64年間にわたって、市民に愛された野口記念館の佇まいを継承しつつ、先進的な機能とデザインを採用することにより、市民が新しい「わたしたちの拠点」と感じられる施設をつくる。
- (2)明確な配置計画・動線計画や、あらゆる市民に使いやすく分かりやすい、ユニバーサルデザインを始めとして、多様な使い方が出来る居心地の良いフリースペース、練習室などと、先進的な性能を持つホールが、新たな文化芸術活動の創造・活性化を促す場となる。
- (3)最新かつ一級の性能を持つホールで、子供たちが一流の芸術に触れ、また、日常的に利用することで、自分たちの地域に誇りを持ち、将来の地域づくりを担う人材を育成する。

※ユニバーサルデザイン

年齢や性別、国籍・文化・言語、また、障がいの有無等を問わず利用できることを目指したデザイン

4. 施設の特徴

【延岡ならではのカタチをつくる要素】

伝統を継承し人々の新たな活動を包み込むカタチ

かつて近傍に在った、延岡城下武家屋敷街区の入り口「京口門」を象徴的に再現し、活動のショーケースとする

まちを明るく照らす象徴的なホールのかたち

水郷延岡の美しい伝統的風景（流れ灌頂の灯籠）をホール外観のイメージとして表現する

文化芸術の礎となり、緑がまちに溶け込むカタチ

建物各所から石（石垣）と緑がすけて見える。日本の名城の一つ延岡城跡の豊かな「景観」と一体化した情景をつくる。

【いつも賑わう施設をつくる仕掛け】

通り抜けとたまり場

南北と東西のそれぞれを貫く「とおり」を設け、各所にたまり場を設ける。人／もの／出来事を引き寄せる。

見る・見られる関係をつくる

地上階と最上階に外部テラスを設けて、城山やシンボルロードとの「見る・見られる」の関係をつくる。

賑わいを連続させる

シンボルロード、城山や、カルチャープラザのべおか、内藤記念館等への回遊性をつくり出す。

5. 諸室等の概要

○ホール

音楽を主目的とする、ホールに相応しい、明るく上品な空間を目指します。二層分の高さの壁が、客席の三方を取り囲み、親密な一体感のある空間を形成しています。この壁面に、市産材を利用した、木ルーバーを全面的に設置します。木ルーバーは、音を拡散させ、豊かな音響をつくりだすと同時に、木の素材感が、温もりのあるやさしい印象をつくりあげます。フォロースポットレベルより上部は、ハイサイドライトとし、自然光を取り込むことが可能な計画としています。自然光の取り入れは、客席の明るさと快適性を高めるだけでなく、清掃時に照明をつける必要がなくなるので、省エネルギー化も期待できます。天井は、音響拡散効果を高めるために、波打つように連続する曲面形状としています。客席椅子は、2時間座り続けられることを追求し、生地の素材は、延岡市の特徴を表現できるものを検討していきます。舞台設備は、市民の文化芸術活動はもちろんのこと、多様な巡回公演等に対応する、柔軟かつ効率的に対応しうる舞台機能を実現させます。

客席数 1階 508席（車いす席2席）

2階バルコニー席 84席（立席30席、多目的席8席含む）

3階バルコニー席 79席

671席

※車いす席は客席を取り外すことにより、最大で28席確保可能

舞台サイズ

主舞台 間口8間 奥行6間

袖舞台 上手袖6間×6間 下手袖7間×6間

プロセニウム詳細

PW 9.5間 袖幕で調整可 PH 6.2m~9.5m 可動プロセニウム

視距離 最大視距離 21.9m 1階客最大視距離 20.7m

反射板 可動式音響反射板の設置

座席 座席幅 520mm 椅子背の間隔 950mm

○野口遵どおり・ごかせどおり・おおせどおり（玄関ロビー、廊下部分）

地元の木材をふんだんに使用した「とおり」は、南北と東西方向からアクセスでき、各所にたまり場を設けます。南面の玄関ロビー空間に「野口遵翁」の胸像を配置し、胸像の位置から野口遵どおりを北に向けて歩くと、「野口遵翁」を顕彰する展示ギャラリーへとつながり、全館をあげて、「野口遵翁」を顕彰する施設とします。

○フリースペース・練習室

さまざまなイベント、多目的な市民活動、各種会議、学習スペース、特別企画展、会合等に利用されるとともに、簡易で小規模な舞台芸術公演（演劇、ダンス、パフォーマンス等）、電気音響を使用した音楽催物（ポピュラー、ジャズ、ロック等）、大ホールで行われる公演のリハーサル室や大楽屋としての利用、練習・稽古等のほか、パーティーやレセプション、学会、展示会場等、様々なジャンルの催物が開催可能な空間とします。

○トイレ

通常時の交流ゾーン（ホール以外の部分）の利用者については、1階のトイレ使用を想定しており、一方で、公演等でホールを利用するときには、2階のトイレを使えるよう、動線や女性トイレの便器数にも配慮した計画としています。また、「誰でもトイレ」は、1階に3箇所、2階に1箇所、3階に1箇所の計5箇所館内に設置しています。

○野口遵翁顕彰ギャラリー

来館者の目の触れやすい位置に配置し、延岡において事業展開するに至った由来や、延岡が工業都市として発展していく黎明期の姿などを伝えながらも、野口遵翁の人物像の紹介を中心に伝えます。

※このギャラリーについては、基本計画及び詳細な設計を別途発注しています。

○外部テラス

地上階と最上階に、城山やシンボルロードと「見る・見られる」の関係にある外部テラスを設けています。

地上階においては、屋外イベントなどの会場や、練習室と一体化した利用などで、賑わいの仕掛けをつくるスペースとします。

最上階の外部テラスは、城山の三階櫓跡や、シンボルロードなどを眺めることができる憩いのスペースとして、また、まつり延岡や市庁舎でのイベント開催時などでは、賑わいの新たな拠点スペースとして活用できます。

6. ユニバーサルデザイン計画の概要

高齢者や、障がいのある方等を含む不特定多数の方が利用することから、すべての利用者が、安全にかつ安心して快適に施設を利用でき、サービスを等しく享受できるよう、演者、観覧者を問わず全ての来館者に対して、ユニバーサルデザインにおける、先進的なモデル施設となるように計画します。